

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会 新札幌パウロ病院		
事業所名	グループホーム 夏桜		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目728-12		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との交流を大切にしている。 外出行事にはボランティアの方たちに協力をして頂いており、こちらからも地域の行事に参加させてもらっている。 毎年、地域の小学生が育てた鈴虫を寄贈して頂いており、こども神輿が来たときは、利用者が直接賽銭を渡して、励ましの言葉をかけ、地域の一員としてとけこんでいる。</p>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503510&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503510&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年9月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅地で、森林の緑に囲まれ、賃貸農場が隣接して豊かな自然に恵まれた環境である。 地域との交流に積極的に取り組んでおり、多彩な活動を活発に行っている町内会と友好・緊密な連携が展開されている。各種の町内会行事や、町内会組織の一つである福祉推進協議会の実施する、ピアノコンサート、バーベキューなどを盛り込んだ「いきいきサロン」に参加し、子供神輿を迎え、毎月ボランティアが来訪し外出の援助などを受けている。また、ホームの主催する行事には地域住民を招いている。防災体制や訓練などでも地域と深く連携している。小学生が寄贈してくれた鈴虫の飼育を仲立ちに交流が生まれ、利用者に元気を与えている。 設立母体が大手の医療法人で、医療施設の他にも介護保険関係の事業を多数系列に有しているため、医療面での支援ばかりでなく組織的な管理体制が整っており、同種あるいは異種の事業体同士が共同で行事を行ったり、支援し合ったり、職員教育を相互に訪問して行うなど、多角経営の利点が豊富に活かされている。 書類、各種のマニュアルや職員の教育計画などもよく整備されている。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(1階はる風 アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、全体カンファレンスにて理念と心得を斉唱して、地域密着型サービスの意義を確認し合い、ケアに反映されるよう取り組んでいる	法人の共通基本理念である「大切な命を元気で楽しい命に」の下に5項目の基本方針を掲げ、玄関に掲示し、職員は手持ちカードにして常時身に着けている。毎月のカンファレンスではこれを唱和して意識を高めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、積極的に行事に参加している。地域の方々がボランティアとして毎月訪問されており、外出行事や戸外散歩で交流を深めている。登下校するお子さんや、犬の散歩中の方と挨拶を交わすなど、地域の一員として溶け込んでいる。	地域との交流に積極的に取り組んでおり、多彩な活動を活発に行っている町内会と友好・緊密な連携が展開されている。各種の町内会行事や、福祉推進協議会の実施する「いきいきサロン」事業に参加するほか、ボランティアの派遣を受ける、災害対策で協力を得る、など地域との密着度は高い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営者、管理者は地域の研修や会合に参加して、認知症の人やケアを理解してもらうように勉強会を計画している。広報誌を定期的に発刊し、町内会で配布してもらっている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のなかで、外部評価を報告し、明らかになった課題への取り組みについて話し合っている。その内容は事業所の全体カンファレンスに反映し、サービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター、消防団、家族などが参加して、近況報告、行事連絡、災害対策などについて協議している。参加者の意識は積極的で活発な論議が展開され、その結果の多くが事業所の活動に取り入れられている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市主催の研修、グループホーム管理者会議、集団指導に参加している。その結果をケアの質の向上につながるよう取り組んでいる。不明なことは電話で問い合わせをして教えて頂いている	市主催の行事には積極的に参加し、電話で相談なども行っているが、行政との対応の大部分は法人の医事課が行っているため、事業所が直接関わる場面は少ない。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は外部研修に参加し、その後事業所自主研修を実施することにより、全ての職員が身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を理解している。玄関は、日中は基本的に解錠しているが、さまざまなリスクや防犯上の危険も考えられるため、施錠を検討している	身体拘束ないし虐待防止に関して、外部研修受講および内部研修をそれぞれ年2回実施して職員の教育に努めている。倫理と法令順守に関する手引きおよび身体拘束防止マニュアルを整備している。玄関は昼間は開錠しているが、利用者の状況によっては施錠が必要と判断される場合もあり、その場合は家族の了解を得て施錠することもある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する外部研修に参加している。事業所自主研修で、具体的な内容を確認し、通報の義務化や擁護者支援法についても学んでいる		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修に参加している。その後事業所自主研修で、全職員が学ぶ機会を持っている</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明を丁寧に行っている。さらに利用者が重度化した時の対応や医療連携体制を説明し、同意を得ている</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からは、日々のケアの中でやりとりや、訪問看護師、ボランティアとの会話で思いを表せるよう支援している。家族からはホーム便りやサービス担当者会議で問いかけたり、玄関に御意見箱を設置して、意見要望を言いやすいような取り組みを実施している。それらは個人ノートや議事録に記録し、カンファレンス等を通して反映させている</p>	<p>利用者の意向は日々の関わりの中から汲み取り、家族の意向は来訪時に聞き出すように心掛けている。来訪の少ない家族には事前に電話して聞き取っている。介護計画を作る際のサービス担当者会議では家族も参加し、意見を述べる機会が設けられている。聴取された意見は個人ノートに記載して職員が共有し、カンファレンスに反映されている。</p>	<p>家族アンケートを計画し、近く実施予定とのことなので、実現を期待したい。その際、回答する家族の匿名性を確保できるような工夫を期待したい。</p>
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者や管理者は、定期的な個別面談や月2回のカンファレンス等で、職員の意見や要望を聴く機会を設けている</p>	<p>職員との個別面談およびカンファレンスの機会に運営に関する職員の意見が活発に提起されている。職員と法人、管理者あるいは職員間との関係は良好で、率直な業務改善の意見が提示されている。職員同士の意見交換のノートも作られている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>一年に二度、SUS(ステップアップシステム)シートに自己評価を記入してもらい、面談をしてコーチングの機会を設けている。また、昇給制度や研修受講の機会を設けて、モチベーションやスキルアップを図れるよう職場環境を整えている</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には多くの職員が受講できるように努めている。受講した職員は全体カンファレンスで内部研修として発表している。研修報告書は全職員が閲覧し、法人にも提出している</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北海道認知症高齢者グループホーム協会に加入しており、連絡会や勉強会に参加している。厚別区グループホーム合同研修会や、地域包括センター主催の「ぐるべん」で同業者との交流を図っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人または家族を通して生活状況を把握するとともに、意向を聞いたり不安を受け止めるように努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族の立場に立って話を傾聴し、要望心情を理解するように努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談での会話の中から、本人や家族が第一に求めている支援を見極めて対応するように努めている。また必要に応じて、他のサービス機関に連携出来るように取り組んでいる		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする先輩として利用者を敬い、料理等の家事や、畑仕事等の得意分野で力を発揮してもらおう場面を作っている。職員は日常は積極的に挨拶をしているが、退勤時はさり気無く帰るようにしている		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の来訪時に日頃の様子を伝えている。特変があれば連絡をして、受診等の協力をしてもらっている。また、サービス担当者会議を開催して、共に支える関係を築いている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や訪問は自由にしてもらっている。また食事や旅行、墓参り、理美容院等への外出の機会を支援し、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている	本人の希望する墓参、法事、馴染みの理美容院、自宅などの訪問は家族に任せている。あるいは盆、正月の帰宅などを家族に推奨している。友人、親戚などの来訪は多い。以前のサークル活動の継続なども該当者がいれば援助する。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりを大切にし、役割活動やレクリエーションが円滑に楽しめるよう働きかけている。一人ひとりの個性を見極め、必要に応じて座席を変更している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、移行先へ面会に行ったり、家族が来訪することで関わりを継続している		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言葉や表情から、その人の思いや要望を把握するように努めている。可能な時は直接本人に希望を聞いている。サービス担当者会議で家族から意向を聞いて尊重している	表現が困難な利用者でも、長年の経験で表情などから意志を読み取っている。意味不明の拒否反応も、家族からの過去経歴の情報で理由が理解できた事例もある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談やセンター方式を活用して、生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用までの経過を把握するようにしている。また、日々の暮らしの中で、利用者から昔の話を引き出すよう努力している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「暮らしのようすシート」「個人記録」に毎日記入して、きめ細かく申し送って情報を共有している。必要に応じて、センター方式を用いて全体像を把握するように取り組んでいる		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを取り入れ、より良く暮らしていけるような介護計画を作成するように努めている。全職員でアセスメントを行って、カンファレンスでモニタリング表を用いて話し合っている。サービス担当者会議には家族にも参加してもらい、介護計画に反映している	介護計画は利用者ごとの担当職員が中心になって作成する。日常介護から得られる本人情報、訪問看護師からの医療関係情報、サービス担当者会議での家族の意向、全職員によるアセスメントを基に、カンファレンスでモニタリング表に基づいて話し合い、計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作り、暮らしの様子や本人の言動、食事量、水分量、排泄、睡眠等を記録に残して全職員が把握するよう努めている。介護計画が実践されているか確認して、毎日記録に残している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活用して、利用者が安心して過ごせるよう健康管理をしている。また、利用者や家族の状況に応じて通院同行や送迎、食事形態の対応支援をしている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で豊かな生活が続けられるよう、町内会、福祉推進協議会、ボランティア、民生委員、消防等の支援を得ている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医と事業所の関係を築いている。基本的に受診は家族対応となっているが、状況によって職員が対応することもある。これは利用契約時に説明して同意を得ている	かかりつけ医は入居の際に家族の要望に沿って決められる。協力医療機関以外の受診は原則として家族同行だが、その際は日常の生活や健康情報を記録したファイルを託し、診療結果は家族から聴取して個人ノートに記録している。	

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所母体の医療法人新札幌パウロ病院からの訪問診療に同行している看護師が、毎週訪問看護師として利用者の健康管理や医療面での支援を行っている。体調の変化があれば随時連絡し、支持を仰いでいる			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援情報を病院関係者に提供し、また退院した場合に備えて、職員が来院し、病院関係者や家族との情報交換や相談に努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化した場合や終末期について、事業所として「できること、できないこと」を説明し同意を得ている。入院中に重度化した場合は、家族、かかりつけ医、訪問看護師を交えて方針を話し合い、チームとして支援している	入居契約の際に「医療連携体制に関する指針および重度化指針」を示して確認を得ている。食事がとれなくなった時点で医療施設への移行を基本とし、終末期の介護、看取りはしない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力をいただき、職員及び家族も参加して、年に一回救命講習を受けている。緊急時連絡網やマニュアルを作成し、カンファレンスで対応を話し合っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	全職員と地域の方が参加する自主防災訓練を年二回実施し、消防署の指導を受けている。さらに、夜勤帯を想定しての避難訓練を繰り返し行っている。火災通報装置やスプリンクラー設備について業者から説明を受け、理解を深めるよう取り組んでいる。また防災チェックシートを作成して、毎日確認している。さらに大地震が起こった時には職員が利用者をどのように誘導するか消防関係者に相談し、カンファレンスでも話し合っている。災害時の一時避難所の確保や利用者の誘導などを具体的に運営推進会議で話し合っている。	消防署の指導を受けての、夜間の火災を想定した自主防災訓練を年2回実施しており、地域の協力者、設備点検業者、利用者も参加している。その他に、起こりうる事態をイメージによって想像し、対策を話し合う訓練も行っている。1次避難場所は近隣の特養、2次避難場所は法人病院と定めてある。非常時食糧、医療品などの備えもできている。救命救命訓練は地域住民、家族も参加して年1回実施している。	火災以外に地震を想定した備えと訓練も検討中とのことなので、早期の実施を期待したい。また水害、土砂災害などの危険性についてもその有無を確認しておくことを期待したい。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として利用者を敬い、認知症の人への理解を深めるよう自主研修やカンファレンスで取り組んでいる。トイ誘導や排せつの失敗を他の利用者に分らないよう配慮し、誇りやプライバシーを傷つけないように努めている	カンファレンスやモニタリングで本人・家族の視点から尊厳について話し合い、不適切な言葉があった時には職員間で出し合い確認している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な提供にならないようあらゆる場面で選択できるように言葉をかけている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に気を配りながら希望を優先して、掃除や散歩、買い物、ゲームなどの支援をしている			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは本人の選択を尊重している。外出や行事の際は化粧やおしゃれを楽しむ支援をしている。気候や体調に適した衣類を調整する支援をしている			

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るよう、調理、配下膳、後片付けなどを一緒に行うようにしている。誕生日や季節の行事に合わせて好みの献立をお出ししたり、外食に出かけることもある。ホームの畑で採れた野菜を料理する楽しみを味わって頂く支援もしている	ユニットごとに献立を作り、利用者の好き嫌いを把握し、調理の形態や種類を変えて提供している。可能な限り下膳や後片付けを全員で行い、お茶出しや盛り付けなどできる範囲内で利用者も準備に参加している。ニュースや料理の話を交わしながら家族的な雰囲気の中で職員も食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、適切な食事量と栄養のバランスが保たれるよう支援している。十分な水分摂取ができるよう、こまめにお出ししたり、変化をつけて工夫するよう努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生はケアプランに取り入れ、毎食後一人ひとりに声をかけて行っている。夜間は義歯洗浄剤を用いて清潔を保持し、トラブルが生じたときは歯科受診への支援をしている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない利用者には定時排泄誘導をし、トイレでの排泄を支援している。排泄パターンに合わせた下着やパットを使用し、失敗してしまった場合でも、尊厳を傷つけないように配慮しながら対応している	排泄のチェックから、利用者に応じた声かけや誘導でトイレでの排泄に努めている。入所時のオムツ使用から、布下着やパットに改善された事例もあり、排泄の自立支援に取り組まれている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い糸寒天やヨーグルトを食事に取り入れたり、水分も十分に摂れるよう支援を行っている。散歩や体操にお誘いし、体を動かす機会を設けている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は夜勤者が一人のため取り組んでいない。入浴の順番や湯の温度など、出来るだけ本人の希望を取り入れて対応している。また利用者の外出予定や発汗、排泄物の汚染など状況に合わせて柔軟に入浴してもらっている	午後からいつでも入れる態勢を整え、各自週に2～3回の入浴を実施しており、希望によっては4回入る利用者もいる。入浴を嫌がる場合も、週に1回以上は入れるように利用者の状況や希望に沿って柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、昼寝を含めて個別に対応している。また、日中の活動で生活のリズムを整え、安眠できるように配慮している。寝付けない方には話を傾聴したり、温かい飲み物をお出しして、リラックスできるよう努めている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報書を管理して確認するようにしている。薬の処方や用量の変更があれば、個人ノートに記入して周知し、経過観察を行って、医師や看護師との連携を図っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせて役割を持って行動することで、生き生きとした毎日を送れるように支援している。また得意分野で力を発揮してもらえるように努めている。コーヒーやノンアルコールビールを楽しんでいただいたり、お気に入りのDVDを観ていただく支援をしている		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階はる風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自分から外出を希望される方は現在おられない。そこで本人の体調や天候を配慮しながら、散歩や外気浴、買い物、町内会行事、法人主催の催し物などへ出かける支援をしている。また、季節ごとに花見や紅葉狩り、初詣など事業所全体の外出行事を行っており、当日は家族や地域ボランティアの方たちに参加協力してもらっている	近くの河川敷や事業所の周囲を毎日のように散歩し、外玄関ホールやバルコニーでの外気浴を楽しんでいる。年間の外出行事の他に、町内会が開いているコンサートなどの催し物やバーベキューに参加するなど、外気に触れる機会も多い。冬季には初詣や受診などで外に出る機会もあるが、さらに外気に触れる工夫を重ねている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、事業所で管理しているが、外出時の買い物やお費金などは利用者自身で使うように支援をしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は取次ぎ、会話してもらっている。携帯電話を所持している利用者もあり、操作が困難な場合は支援している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エントランスやフロアに四季に合わせた花や飾り付けを、利用者と共にしている。不快や混乱を招かないような配慮を心がけ、照明や冷暖房もこまめに調整し、居心地の良い空間づくりに取り組んでいる	建物内の共用空間は天窓や多くの窓から光線が入り、全体的に明るい。玄関、廊下、台所、居間などの窓からは外の景色が眺められる、自然と一体化した心地よい造りとなっている。家族や来客と一緒に過ごせる談話コーナーは寛げる場にもなっており、プライバシーにも配慮された工夫が見られる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とワークスペースの二か所にテーブル、ソファ、テレビ、雑誌、遊具などを置いて、自由に過ごせるようにしている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、出来るだけ使い慣れたものや馴染みのもので生活していただくように努めている	居室にロッカーが取り付けられており、室内は整頓されている。馴染みの家具類やTV、仏壇などが持ち込まれ、また装飾類や家族の写真、本人の作品など、その人らしい居室作りで心地よい空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室など間違わないように分かり易く表示し、居室には表札を付けている。ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下やトイレ、浴室に手すりを設置している。利用者一人ひとりの状態を見極めて、安全に生活できるよう不安や混乱を招くような物品は片付けるなど、環境整備に努めている		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503510		
法人名	医療法人中山会 新札幌パウロ病院		
事業所名	グループホーム 夏桜		
所在地	札幌市厚別区青葉町16丁目728-12		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階はる風」に同じ
------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503510&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503510&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年9月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(2階そよ風 アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境のもとで安心と尊厳のある生活を営むことが出来るよう事業所理念はあり、管理者も職員も共有し会議前は理念を職員で唱和している		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	月1度の町内のボランティアの来訪が継続されており、またホームの行事(四季折々の外出、クリスマス会等)に来て頂いたり、町内からもお声をかけて頂いて(ピアノコンサート、焼き肉バーベキュー等)馴染みの関係ができてます		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては今年はまだ行っていません。町内のあおば推進協議会を活用して勉強会を23年度末には行いたいと思います		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回行われ、ご家族に報告するだけでなく全体会議、ユニット会議で職員に報告されサービス向上への話し合いに活かしている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市グループホーム管理者会議に出席したり、厚別区グループホーム連絡会議の議事内容を報告したり、わからないことは電話で伺ったり協力して頂いてる		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスの中に身体拘束についての研修会を行ったり、マニュアルも作成している、現在玄関は施錠していませんが今後利用者様の重度化により施錠について検討中		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の外部研修に参加し、その内容を内部研修で発表し職員が周知している。また「虐待防止担当者」も決め虐待についての研修会を開いてくれる		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護に関する外部研修に参加しその研修を内部研修会を開き学び、支援している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明(重度化、医療体制含む)し、事業所として出来ること、出来ないことをお話しさせて頂き、ご家族からの不安や疑問点をお聞きし対応させて頂いてる		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から得た情報(スタッフ)はカンファレンス等を通して反映させている。ご家族からはサービス担当者会議や来訪時に直接お聞きし、個人ノートに記載し申し送りやカンファレンス時に共有している、また玄関には意見箱を設置しています		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談やカンファレンスで意見を聞く以外にも提案があれば聞く機会を用意している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムシートを1年に2回記入し、面談実施している、昇給制度もあり、スキルアップのためには外部研修、内部研修を積極的に行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が学べる機会を持てるよう、色々な研修に異なる職員が参加し、参加した職員が内部研修として発表している、報告は全員が観覧し、法人にも研修内容を提出している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	厚別区の地域包括で行われている「ぐるべん」にて厚別区内のグループホーム職員と交流できる場があり、お互いに意見交換したり、勉強会を開いています。		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に個別対応し、得た情報はスタッフ間で共有する、早く安心して頂けるように生活リズム、24時間生活変化シート、心身の情報等を記入させて頂き関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居判定時にご家族から情報をお聞きした上でプライバシーに配慮しながらご家族との関係づくりに努めている、来訪時にも色々とお声を掛けさせて頂いています		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用者、ご家族様から生活の意向(希望)をお聞きしている、他のサービス機関の情報も収集して提案させて頂いている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望、体調に合わせて職員と一緒に台所仕事に参加したり、掃除をしたりと生活の一部としてお互い支えあっています		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には来訪時に近況報告し、行事の参加の声掛けさせて頂いたり、ご家族から助言を頂き共に喜怒哀楽を築いている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの訪問は自由であり、以前近所に住んでいた方が継続的に訪問しに来て下さる。手紙を書いている方にはスタッフが投函等の支援をさせて頂いている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のADL、性格、その日の体調を重視しコミュニケーションが取れるように支援している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても移転先への面会やその後の状況を把握させて頂いて、ご家族も来訪されたり関係を大切にしています		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの言動や表情から意向を把握するように努め、検討している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族、利用者様からの情報、医師からの意見書等を収集し又一緒に生活していく中から把握するよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、生活のリズム、心身状態の情報共有を行い又出来ることの維持に努めている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の言動を汲み取り本人の視点に立った計画づくりに努めている。全職員でモニタリングを行い必要に応じてご家族の支援、医療機関の意見も反映させて頂いて		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録シートを作り、食事、水分量、排泄、特変等を記入し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診支援、買い物支援、本人、ご家族の状況に合わせ融通など個別対応を行っている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に地域での暮らしが続けられるように町内会、福祉推進協議会、消防機関等と協力しながら支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力により医療情報のやりとりも円滑に行われている本人、ご家族の要望にも対応している		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護にて入居者様の身体変化、生活状況を伝え又問題を感じた時は看護師と連携し医師の診断に繋げている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援に関する情報を医療機関に提出し、入院中の本人、ご家族の支援を行っている。早期退院に向けて情報交換している		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時には利用者が重度化した場合の対応に係る指針を説明させて頂いている。職員もターミナルケア研修に参加したり、ターミナルケアの在り方について方向性を思考している所であります		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救命講習を受講しており、消防団より応急手当の勉強を受け、急変や事故発生時等のマニュアルを備えカンファレンスで対応について話し合い確認しあっている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回自主防災訓練を実施している他、カンファレンスにて年数回火災になったと想定してイメージトレーニングしている。また消防設備等の管理チェック表を作り毎日異常がないか点検している。また災害等の研修参加にて消防署員、消防団員にこちらから発信しアドバイスを受けています		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー尊重と礼儀の勉強会を開いたり、日々のケアの中でその日の表情や状態に応じた言葉かけに対応している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、自ら選択できるような声かけを意識しておこなっている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、その日の心身状況に合わせ支援している。個別性の尊重		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔な服等を身に付けて頂いたり、訪問理容を利用されたり、個別支援をおこなっている		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様が同じ食事を一緒に楽しく摂取し、可能な限り共に調理、盛り付け、下膳を行い自分の役割があることで生活の意欲につながっている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等の摂取量をチェックし記録する、水分が少ない時はお茶等の確保、また代用の食材で召し上がって頂いている。その方のペースに合わせ食事形態なども調整している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の清掃は個々のできる力によって支援している。うがいも日常的に行われ、出血、炎症等がないか口腔内のチェックをおこなっている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄ができるように支援している。パット使用のかたも声かけにてトイレで排泄できるように支援し、パット使用を減らすように努めている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、予防として水分等を摂取している。改善が困難場合は医師、看護師の指導を受ける		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができる体制は整っている。入浴日は週3回となっているが本人の希望や体調により臨機応変な対応に努めている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠、休息時間は個々の生活習慣やその時の体調に合わせて心身を休める場所をとれるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最近の薬の内容を個人ファイルに管理し、いつでも職員が確認できるようになっている。服用時は名前、日にちを声にだし確認している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の声に耳を傾け、入居者様が望む散歩、裁縫、家庭菜園、ゲーム等、気分転換の支援をしている		

グループホーム 夏桜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階そよ風)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じて出来る限り散歩、買い物、地域の活動等に参加できるように支援している。地域の協力を得て花見、動物園に行ったり、ご家族とも外食やお墓参りに行かれています			
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人のお金の管理は行わないが本人、ご家族の責任のもと少額の金銭の所持はお任せしている。一緒に買い物に出かけご自分で支払いができるように支援している			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかける手紙を書く等、本人に合わせ支援している。投函はスタッフ対応			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近の写真や季節感の飾り、入居者様手作りの作品も飾り創出するなど工夫している。共有スペースも2か所あり、ゆっくと過ごされています			
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも2か所共用空間があり、一人でテレビ見たり、気の合った利用者同士、談話されています			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族より使い慣れた物を持ち込んでもらい状況にあわせ過ごしやすい居室環境作りを支援している			
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力にあわせ安全な家事等の参加、ホーム内も段差がなく車椅子の方でも安全に生活ができる。身体状況に合わせて家具の配置換えを行うなど工夫している			



目標達成計画

事業所名 グループホーム 夏桜

作成日 平成 23年 10月 17日

市町村受理日 平成 23年 10月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	玄関に意見箱を設置しているが家族からの意見、要望までは至っていない	利用者家族が意見、要望を表明しやすい環境作り	家族アンケートを実施の際、回答するご家族の匿名性を確保できるように返信封筒には返信先を印刷しておき筆跡がわからないように配慮する。またご家族の来訪時に意見を聞くように心がける	3カ月
2	35	自主防災訓練は年2回、夜間の火災を想定して実施しているが自然災害(地震・水害)等についての訓練まではできていない	自然災害時における安全確保等の対策作り	洪水ハザードマップを利用して学ぶ 地震、水害についての対策と訓練を行う(例えば:土砂崩れ、床上浸水を想定して2階へ避難し連絡網を活用して救助を待つ訓練)	8カ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。